

青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会
(東青地区) (第3回) 概要

日時：令和3年2月8日(月)

13:30～15:30

場所：ウェディングプラザ アラスカ
4階 ダイヤモンド

<出席者>

委員

成田一二三 委員、渡辺 伸一 委員、勝野 義彦 委員、吉崎 博 委員、
五十嵐義人 委員、賀田 州一 委員、工藤 幸治 委員、泉 夏樹 委員、
載本 一 委員、木村 修悦 委員、福原 正人 委員、小松 達弘 委員、
前田 眞己 委員、濱田 一博 委員、笹木 正信 委員、飛内 文代 委員、
松野 洋祐 委員(進行役)

オブザーバー

宍倉 慎次 県立青森高等学校長、菅原 文子 県立青森西高等学校長、
前田 済 県立青森東高等学校長、高谷 悟 県立青森北高等学校長、
中道 哲 県立青森南高等学校長、對馬 嘉晴 県立浪岡高等学校長、
三上 雅也 県立青森商業高等学校長、渡部 靖之 県立北斗高等学校長、
甲田 隆 県立青森第二高等養護学校長

1 開会

2 事務局説明

- 事務局から、配布資料の概要及び意見交換の進め方について説明した。

3 意見交換

(1) 「全日制課程の学校規模配置に関する意見(重点校・拠点校・地域校配置等)」
について

- 事務局から、資料1-1について説明した。

(2) 「全日制課程の学校規模配置に関する意見(委員の意見に基づく学校配置)」
について

《ア 全ての学校を配置する場合》

- 事務局から、資料1-1について説明した。

- 委員から、次のような意見があった。

- 更に検討を要する課題として、青森北高校のスポーツ科学科及び青森南高校の外国語科では、特色あるカリキュラムにより教育活動を行っているという意

見があるが、具体的にどのような特色があるのか、カリキュラムの内容を伺いたい。

- 進行役から、青森北高校スポーツ科学科及び青森南高校外国語科の現状について、オブザーバーである青森北高校及び青森南高校に情報提供を求めた。

○（青森北高校） 青森北高校は昭和16年に開校し今年度80周年を迎えた学校であり、スポーツ科学科は平成12年に設置され現在21年目となる。県内でスポーツ科学科が設置されているのは、青森北高校、弘前実業高校、八戸西高校の3校だが、青森北高校は県内で初めてスポーツ科学科が設置された学校である。

スポーツ科学科のカリキュラムの特色については、まず、普通科と比べ体育の履修時間が多いことがあげられる。スポーツ概論、スポーツⅠ～Ⅵ、スポーツ総合演習といった科目があり、教科書に基づく学習のほか、多様な競技等に関する学習、卒業時の論文制作等に取り組んでいる。また、スポーツ科学科では特色ある教育活動を行っており、ダンス実習や水泳実習、カーリング実習、エアロビクス実習、テーピング実習等、外部指導者を招聘した学習に取り組むとともに、2年次に沖縄で実施している修学旅行では、例年、スキューバダイビングライセンスの取得に取り組んでおり、ほとんどの生徒がライセンス取得を達成している。

近年では、青森第一高等養護学校と連携した取組も進めており、本年はフライングディスク競技の交流事業を実施している。新型コロナウイルスの感染対策のため、お互いの体育館でリモートにより開催したところだが、生徒達は十分楽しんでいる様子だった。

また、例年10月には保護者や中学校関係者等を招いて、スポーツ科学科実技発表会を実施しており、こちらも新型コロナウイルスの感染対策のため苦労したところだが、何とか実施することができた。

なお、スポーツ科学科の生徒は、部活動の中心選手となっており、硬式野球部、陸上競技部、ラグビー部に所属する生徒が多い。

最後に、現3年生の進路内定状況を紹介させていただくと、進学者については私立大学が15名、短期大学が2名、専門学校が8名となっている。また就職者については公務員が5名、その他の就職が8名となっている。公務員については市町村役場や警察、自衛隊を希望する生徒が多く、ここ数年は全員が内定を得ている。また、将来的には指導者、スポーツトレーナー等の職業を選択する生徒が多い状況にある。

○（青森南高校） 青森南高校は令和5年度で50周年を迎える非常に若い学校である。学科構成は現在、普通科5学級、外国語科1学級の各学年6学級編制だが、令和3年度入学生からは普通科が1学級減となり、普通科4学級、外国語科1学級の5学級編制となる。

外国語科のカリキュラム上の最大の特徴は、外国語の時間数が普通科に比べて非常に多いことにある。外国語科の生徒が3年間で履修する外国語の合計単位は28単位で、普通科文系の単位数よりも10単位多く、普通科理系の単位数よりも11単位多いこととなる。その中で、ロシア語は選択によって6単位、あるいは4単位履修できるカリキュラムとなっている。

昨年度の外国語科卒業生の進路を紹介すると、4年制大学が30名、うち国公立大学が8名となっている。また、短期大学が4名、専門学校が5名、そして浪人生が1名となっており、卒業生の75%が4年制大学へ進学している状況にある。

外国語科の卒業生は、豊富な外国語の授業で身に付けた語学力を生かし、語学関係や国際関係の学部へ進学する生徒が多いが、近年では、他の学部に進んで将来様々な分野で語学力を武器に活躍しようという生徒が多くなっている傾向がある。

また、英語の資格取得に関しては、現3年生から英検準1級取得者が3名出るなど、3年間の外国語学習によって、非常に高い語学力を身に付ける生徒が複数出ている状況である。

外国語科の一番の特色である国際交流活動については、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大のために、海外への修学旅行も含めて大半が中止となってしまったが、そのような中であっても、昨年12月に県教育委員会の高校支援事業である進学力パワーアッププログラムを利用して、1年生が福島県にあるブリティッシュヒルズという語学研修施設で万全な感染対策を行いながら、研修を行い、国際感覚を身に付けることができた。

また、近年はフィリピンにあるCNE1という語学研修施設での研修を実施していたが、今年度はオンラインにより夏休みと冬休みに希望者が研修を行ったところである。

本校にはアメリカとロシアに姉妹校がそれぞれ1つずつあるが、近年はロシアのサンクト・ペテルブルグにある583番校との交流事業を活発に行っている。今年度は相互の行き来ができなかったが、お互いの授業等で作成したビデオを交換し、自国の文化を紹介し合うといった取組を行うことができた。

今後は、ウェブ環境が更に整っていくことが予想されるためウェブ会議システムなどを利用し、リアルタイムの交流を行うことも可能だと考えられる。

本校は、国際理解教育を教育目標の中心に掲げており、単なる国際交流にとどまらず、異文化理解学習やボランティアなどの貢献活動を通して生徒の話す力、考える力を最大限に伸ばすことを目指している。外国語科の生徒はその牽引的な役割を担っており、英語やロシア語等の弁論大会、英語ディベート大会への積極的な参加等により、普通科の生徒たちをリードしている。

- スポーツ科学科、外国語科については、募集人員に対するニーズという観点から名前が挙がっているところだが、今般の中央教育審議会の答申等を見ると、普通科教育の中身が問われており、今後、国の方針として普通科の多様化が求

められるとも言われている。そのような中、スポーツ科学科や外国語科の活動内容は有効な形で生かせるのではないかと非常に心強く思った。

このような各高校が持っているノウハウは、1回途切れてしまうと改めて構築することが難しくなると考えられるため、現在の活動を継続していけるような在り方も考える必要があるのではないかと。

- 浪岡高校についてはスポーツ科学科を1学級ないし2学級設置しても良いのではないかと。青森北高校スポーツ科学科の志望倍率を見ると、浪岡高校においても募集人員を上回ることが期待される。

浪岡高校のバドミントンに関する活動は非常に特色があると思われるため、スポーツ科学科の設置については考慮して良いのではないかと。

また、他地区の地区意見交換会の状況も踏まえると、現時点では浪岡高校の統合を急がなくても良いのではないかと。

《イ 東青地区の重点校を青森高校、青森東高校として配置する場合》

- 事務局から、資料1-1について説明した。

- 委員から、次のような意見があった。

- 東青地区だけ重点校を2校配置することに懸念を感じるという意見があるが、私は第1回会議において、重点校を各地区2校にすることが本県高校教育の活性化につながるものと考え発言したところである。

重点校を複数校とする意見については、上北地区においても三本木高校に加え三沢高校も重点校にすべきという意見が出されている。

私は20年ほど前、三沢高校の教頭を務めていたが、記憶では、国公立大学への合格者数が三沢高校では77名程度、三本木高校では86名程度と、10人足らずのところでも肉薄していた。当時の進路指導担当の先生方は、三本木高校に追いつけ、追い越せと意気盛んに頑張っていたということもあり、私はお互いにライバル校として切磋琢磨することによって、学習のみならずスポーツにおいても相乗効果があると考え、意見させていただいた。

改めて、各地区とも重点校を2校にするということを提案させていただきたい。

《ウ 小規模校と他の高校(浪岡高校と青森西高校)を統合して新設校を配置する場合》

- 事務局から、資料1-1及び資料3について説明した。

- 委員から、次のような意見があった。

- 浪岡高校については、志望倍率や入学者数が減ってきているため、一つのシミュレーションとして青森西高校との統合を検討している状況だと思うが、青

森北高校からの情報提供にもあったように、青森北高校にはスポーツが盛んというイメージがあるため、バドミントンに一生懸命取り組んでいる浪岡高校と統合するシミュレーションも考えられると思うがどうか。

- 進行役から、委員の提案の取扱いについて事務局に確認があった。
→（事務局） 浪岡高校と青森北高校との統合も考えられるのではないかという意見をいただいたものとする。浪岡高校と青森北高校との統合に関して、可能であればこの場で考えられる効果や課題等について意見をいただきたい。
- 進行役から、浪岡高校と青森北高校を統合して新設校を配置するシミュレーションの効果と課題について意見を求めた。
- 委員から、次のような意見があった。

- スポーツの点で考えるのであれば良い意見だと思うが、地理的な観点もあると思う。浪岡中学校の卒業者のうち、浪岡高校に進学しているのは約1割の生徒であり、これらの生徒が通学することを考えると、青森西高校であれば地理的にも通学可能だと思う。また、浪岡中学校の卒業者の進学状況を考慮すると、やはり青森西高校と浪岡高校との統合が妥当なのではないかと思う。

ただし、委員から意見があったように、浪岡高校には全国からバドミントンを一生懸命やりたいという生徒が入学してきているということなので、このような流れが統合後も続くような体制の構築が必要だと思う。

- 進行役から、浪岡高校と青森北高校を統合して新設校を配置するシミュレーションも含め整理するよう事務局に指示があった。

（3）「全日制課程の学校規模配置に関する意見（その他の意見）」及び「定時制課程及び通信制課程の配置に関する意見」について

- 事務局から、資料1-1について説明した。

（4）「多様な教育制度に関する意見」及び「その他」について

- 事務局から、資料1-1について説明した。

- 進行役から、今回の地区意見交換会の内容を踏まえ、資料1-1を修正し各委員に送付するよう事務局に指示があった。その後、各委員からの修正意見を踏まえ、最終的に進行役が内容を確認し、東青地区意見交換会における主な意見として県教育委員会教育長に報告することを確認した。

4 閉会